

文字に関わる基本用語

書体・フォント・字体・字形 何が違う？

デザインをする人に限らず、多くの方が書類や画像を作る時などに「フォントを選ぶ」ことをしています。今、文字のデザインの種類を指す用語として「フォント」を使用しましたが、よく似た意味をもつ用語に「書体」があります。どのような違いがあるのでしょうか。

今回は、文字に関する基本的な用語である「書体」と「フォント」と合わせて、「字種」「字体」「字形」についてもご紹介します。

書体とフォントを説明する前に、字種、字体、字形について紹介します。順に追っていけば、より書体の定義を理解できるかもしれません。混同しやすい用語ですので、例を挙げながらご紹介します。

字種

字種とは、漢字の分類で使用される用語で、同じ読み・意味を持っている漢字のまとまりのことです。

「国」と「國」のように、形状(字体)が異なる漢字でも、同じ読み・意味であれば、同じ字種となります。

形状が似ていても、読み・意味が異なる漢字の場合や、読み・意味に共通するものがあったとしても、歴史的につながりがなく、現在において互換性がない場合は「別の字種」となります。

同じ字種

国 と 國

亜 と 亞

高 と 高

島 と 嶋 と 嶼

別の字種

末 と 未

形が似ていても、読み・意味が異なっていて互換性があるものとして認められない

中 と 仲

読みや意味に共通するところがあっても歴史的につながりがなく、互換性がない

字体

字体とは、文字の骨組みのことを言います。

文字が特定の文字として認識される、その文字の基本となる形のことです。

字体は、「この漢字はこういう形だな」というような文字に対する誰にも共通するイメージ、図形表現としての抽象的な概念です。

手書き文字の違い、手書きと印刷した文字の違い、文字のデザイン(書体)の違いがあっても、同じ字体となります。基本的に同じ字体の文字を「同じ文字」「同じ漢字」と認識することがほとんどです。

先程紹介した「国」と「國」は骨組みが異なるので、違う字体となります。

同じ字体

令 と 令

形が大きく違っても同じ骨組みを備えている
手書き文字と印刷文字
それぞれの表し方の習慣がある

違う字体

国 と 國

画数・骨組みが異なっている

言 と 言 と 言

ゴシック体 明朝体 手書き文字

フォントが違っても手書き文字でも
同じ骨組みを備えている

末 と 末

文字の形が似ていても、漢字の識別に関わる違いがあると骨組みが異なる
元の字の字体の枠組みの範囲から出る

字形

字形とは、文字の見え方や形状のことです。

見て確認することができる文字の形そのものをさします。

字種の違い、字体の違い、線の太さの違い、とめ・はね・はらいの違い、文字のデザイン(書体)の違いなど、大きな違いから細かな違いまで、さまざまな文字の形の違いを「字形の違い」といいます。

先程紹介した「国」と「國」は、字種が異なるので、違う字形となります。

違う字形

文 と 字

文字の種類が違う
(字種が違う)

国 と 國

字種は同じでも、字体が違う

言 と 言 と 言

ゴシック体 明朝体 手書き文字

フォントの違い
印刷文字と手書き文字の違いがある

実 と 実

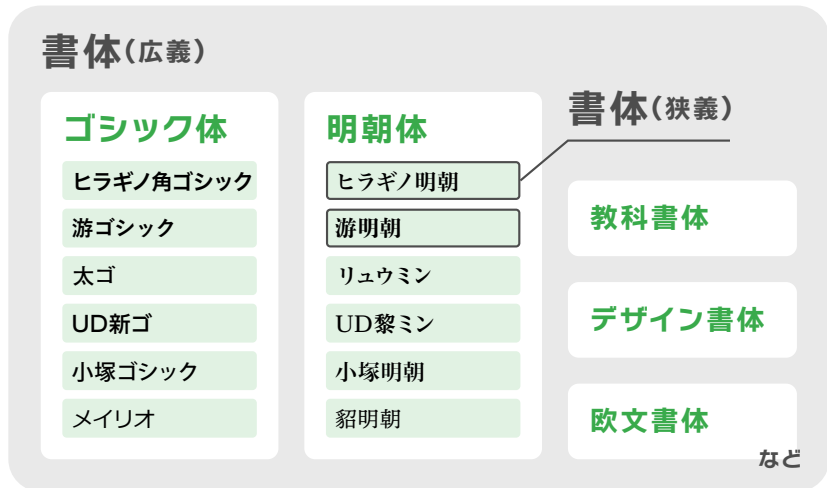
同じ手書き文字でも
細かな文字の形が違う
「はらい」と「とめ」の違いなども含む

書体

書体とは、共通のデザインで制作された文字(字形)の集まりのことです。

タイプフェイス (typeface) とも言われます。

広い意味では、「明朝体」「ゴシック体」「セリフ体」「サンセリフ体」といった種類を、狭い意味では、「リュウミン」「游ゴシック」「ヒラギノゴシック」「Helvetica」といった文字のデザインのことをさします。



同じ書体

ヒラギノ角ゴシック 国 と 國

リュウミン(明朝体) 末 と 未

教科書 ICA(教科書体) 文 と 字

Helvetica(サンセリフ体) A と k

違う書体

ゴシック体 制 と 制

明朝体

広義でも狭義でも異なる書体

ヒラギノ角ゴシック 池 と 池

中ゴシック

広義では同じ書体(ゴシック体)

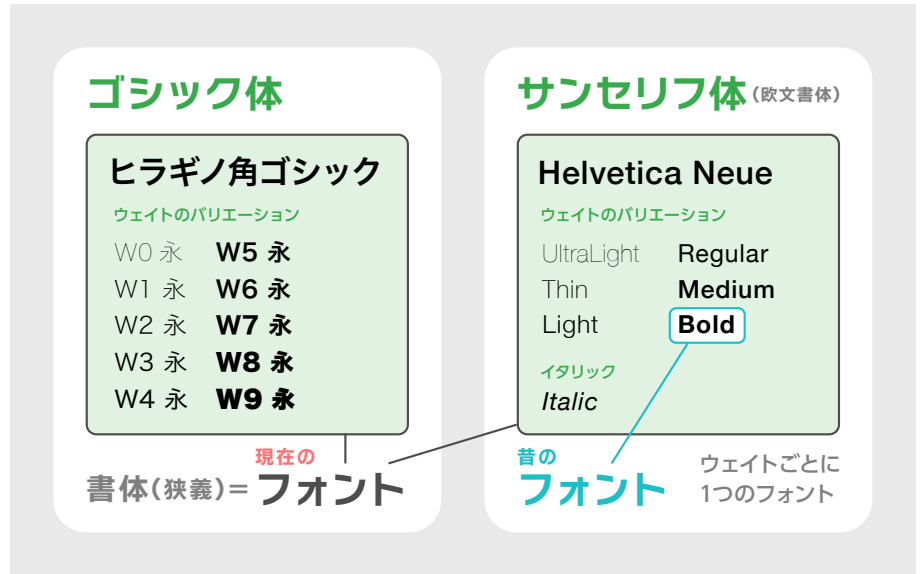
狭義では違う書体(文字のデザインが違う)

フォント

フォントは、昔と今とは使われ方が異なる用語です。

もともとは、同じデザイン(書体)で同じサイズのひと揃いの欧文活字(A~Z、a~z、数字、記号類のセット)をさしていた言葉でした。

DTP(印刷物をコンピュータ上で作成し、作成した印刷データを出力する工程)が普及する前の、活版印刷※が主流だった時は、文字のデザインが同じでも、サイズやウェイト(太さ)が違うと、異なるフォントとして扱われていました。



DTPが普及し、コンピュータ上で簡単に文字のデザイン(書体)を選べる様になりました。コンピュータで使用される書体のデータは、サイズ・ウェイト※・イタリック※などが1つセットになっていることが多いです。

そのため、文字サイズが変わっても異なるフォントとして扱う必要がなくなりました。現在では、書体の狭義である「リュウミン」「游ゴシック」「ヒラギノゴシック」「Helvetica」といった「文字のデザイン」を意味する場合がほとんどで、「書体」と同じような使われ方をしています。

※ウェイト:文字の太さのこと。

※イタリック:斜体。傾いた書体のこと。

※活版印刷:活字(1つの文字がハンコの様になっているもの)を組み合わせて作った版を使った印刷方法。

ハンコを朱肉につけて紙に押すことと同じイメージで、活字の版の凸の部分にインクを付け、紙にインクを転写する。

まとめ

- 字種: 同じ読み・意味を持っている漢字のまとまり
- 字体: 文字の骨組み
- 字形: 文字の見た目や形状
- 書体(広義): 明朝体、ゴシック体といった種類
- 書体(狭義): リュウミン、Helvetica といった文字のデザイン
- フォント(昔): 同じデザイン・サイズの欧文活字の1セット
- フォント(現在): リュウミン、Helvetica といった文字のデザイン

記事・資料制作 | 株式会社SMC-POWER (<https://smc-power.jp/>)

本資料の再配布、資料を加工した転載や配布、販売は禁止させていただきます。
利用で発生した障害や事故などに関していかなる保証も行いません。

